

令和4年度静岡市協働パイロット事業 企画提案書

団体名：認定 NPO 法人しずおか環境教育研究会

1 事業のタイトル

若手先生もできる！地域人材と連携してできる！もういちど幼児公教育現場に自然体験を。

2 事業の概要 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください。)

■ 現状

静かに着実に進行している、市民・子どもが自然環境に向き合う力の低下

- 世代交代が進み、親世代のみならず祖父母世代も自然の中で遊んで育った経験が希薄で危険予知や衛生観念などの不安から家庭発の自然体験のハードルが高くなっている。
- コロナ禍で外出が抑制され、自然に限らず体験機会・運動機会そのものが激減した。
- 小学校では教科の増加により、幼保こども園では安全確保面の不安に保護者の忌避感も重なり、公教育の現場での自然体験も減少傾向。

▶▶ 2019年に NPO 法人として静岡市内幼児公教育での自然体験の現状調査を行い、104園(市内園の43%)・1,069名の幼保こども園職員にアンケートの回答を得た。自然体験への強い信頼表明(28%)があった一方、**リスクへの不安(10%)**、**環境不足(8%)**、**対応力不足(4%)**により保育に組み込めていない現状が明らかになった(%は自由回答中の該当する記述よりカウント)。自然体験できる園とできない園、ベテランと若手、それぞれの分断が進んでいる。

■ 課題

活用しやすく安全面で質の高い自然環境は、公園など公共施設として整備されているが(ハードウェアは充実している)、それらを環境教育のフィールドとして活用できる人材が不足している(ソフトウェアが不足している)。また、そのような身近な自然環境での環境教育を行うノウハウが継承されておらず、学ぶ機会が少ない(情報が不足している)。

■ 上記を受けての事業提案

(1) 環境教育の実践による人材育成→ 幼稚園教諭・保育士 / 静岡市環境学習指導員

- 市内幼保こども園(2園)において、園児と職員、環境学習指導員を交え、園庭や近隣の公園を舞台に、当団体スタッフがナビゲートし保育現場で取り組みやすい自然遊びを実践しつつ、指導方法をレクチャーする。環境学習指導員が研修兼ね同行する。

(2) 動画発信による他園への波及→ 幼稚園教諭・保育士 / 静岡市環境学習指導員

- (1)の様子を撮影し、幼保こども園での自然体験のコツやポイントをまとめた動画を制作。静岡市 YouTube チャンネルにて公開することで、他園への波及を図る。
- 地域人材である環境学習指導員の指導力向上につながる要素を動画に入れる。

■ 協働の意義

- 幼児公教育の現場で自然体験教育スキルを向上させる→**自然体験を取り入れる園が増える**
- 地域の自然環境や「つなぎ役」人材を公教育現場で活用する可能性が広がる
→コミュニティスクールなどへの布石

3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

1 当団体

前提 3年前より幼保こども園での研修・モデルプログラムを実施。
(独立行政法人環境再生保全機構・地球環境基金支援事業
及び 保育園依頼の受託事業として)



地球環境基金報告 URL <https://www.ecoedu.or.jp/lp/research/youji2021/>

役割

- 幼児公教育現場で「実施実績のある」「実際に役に立つ」モデルプログラムを実施する。
- 学識経験者を交え、園の実施前後を評価する。
- 地域人材（環境学習指導員）と園の関わりのポイントをプログラムに反映させる。
- 以上を踏まえた当日の内容を撮影し、動画に編集し成果品を納入する。

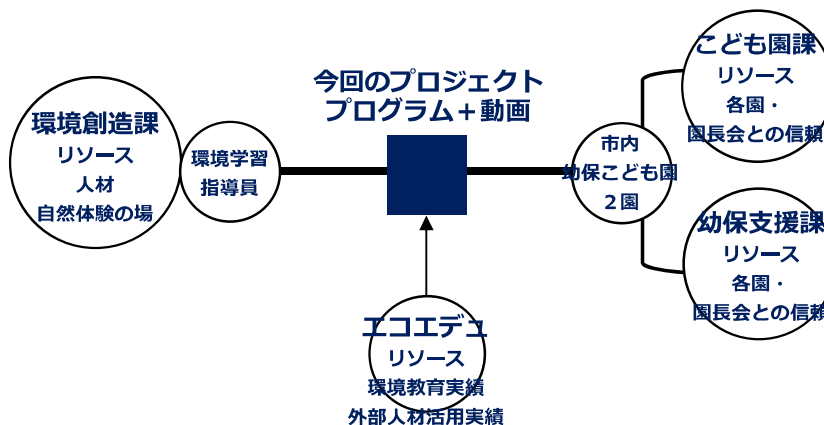
2 静岡市

1) 環境創造課

- 環境学習指導員の出演、及びプログラムへの研修参加をコーディネートする。
- 幼児公教育で活用できる環境教育の紹介動画となっているか監修する。
- 動画を静岡市 youtube アカウントにアップする。
- 環境学習指導員に周知し、研修等に活用する。

2) 幼保支援課・こども園課

- プログラムを実施する2園の選定、及び関係構築に協力する。
- 幼児公教育で活用できる環境教育の紹介動画となっているか監修する。
- 幼児公教育現場に動画を周知し、自然体験の教育・保育への活用を促す。
- 環境学習指導員派遣制度の活用を園に促す。



静岡の幼児公教育に特色・Character を作りたい！

4 事業計画・実施スケジュール

- 2022年7月上旬 担当3課との打ち合わせ・撮影園の検討
- 8月上旬 撮影予定2園決定・1回目訪問（趣旨説明）
- 8月 台本作成・各課で検討
出演・研修参加する環境学習指導員の決定
- 9月中旬 各園と運営者（エコエデュ）、環境学習指導員による事前打合せ
- 10月 2園にプログラム実施・撮影
- 11月 編集・専門家による検証
- 12月 仮編集完了・各課チェック
- 2023年1月 各課チェック終了・youtube へのアップ・チラシ制作
- 2月 チラシの市内園への配布・事業完了

5 実施体制及び主要スタッフの経歴

実施体制

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| ■ 全体統括・関係各課/園との連絡調整
動画編集 等 | 理事長 山本由加 |
| ■ モデルプログラム統括・企画・運営 | 事業主任 柴崎千賀子 |
| ■ 動画台本作成・モデルプログラム運営補助 | 事業スタッフ 石川友紀 |
| ■ モデルプログラム運営補助 | NPO 会員 小林泰之
本田真沙 他 |
| ■ 学識経験者の監修に関する連絡調整・経理等 | 事務局長 鈴木玲子 |
| ■ 学識経験者 | 常葉大学短期大学部保育科 教授 遠藤知里氏
(予定) |

スタッフ経歴

- | | |
|---------|--|
| ■ 山本由加 | 2007年よりエコエデュ勤務。2020年より理事長就任。
自治体・企業との協働事業の設計・運営実績多数。
協働例：静岡県・(公財)静岡県グリーンバンク・静岡大学・
株式会社鳩のつえ（小規模保育園経営）・株式会社ライフプラス（放課後
デイサービス経営）・トヨタユナイテッド株式会社・清水銀行職員組合・
三菱電機株式会社 ほか |
| ■ 柴崎千賀子 | 2008年よりエコエデュ勤務。
環境教育プログラム設計・運営、人材育成研修ほか実績多数。
2020年度当団体開催の環境教育プログラム・研修事業のうち（主催・受託含む）、
13プログラムの主担当及び内容構築を手掛けている。 |
| ■ 石川友紀 | 2015年よりエコエデュ勤務。
環境教育プログラムの設計・運営実績あり。
2019年度から小規模保育園園児向けプログラム、職員研修を通年で伴走している。
また幼児公教育関係者向け自然体験入門動画6本の制作実績あり。 |
| ■ 鈴木玲子 | 2008年よりエコエデュ勤務。2019年より事務局長就任。
2019～2021年度の3ヶ年、地球環境基金助成の支援のもと幼児公教育での自然
体験の実態調査、学識経験者とのモデルプログラム構築・実施を行うとともに
学識経験者・市内幼保こども園との信頼関係を築く実績を上げている。また
バックオフィス業務も担当。 |

6 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など）

専門性

- 幼児に向けての環境教育は、知識の教授が難しい。それ以前に、都市空間で都市育ちの親のもと育ち、自然環境そのものに慣れていない。
当団体は約 20 年前から乳幼児向け環境教育活動を行っており、ここ数年は市内小規模保育園など複数園に職員研修等を通年で定期的実施している。発達段階や子どもの経験値や特性を踏まえた上で、主体性を重視したプログラム設計と運営に専門性と実績がある。

独自性

- 幼児に対して直接プログラムを発信することは団体として長年取り組んできたが、受け入れられる参加者数には限界がある。幼保こども園から直接の依頼を受けても同様である。
今回の提案は、点のプログラムで個人・各園に伝えていく限界を超え、モデルプログラムを撮影した研修動画という形で面的に、自然体験を取り入れていく基礎知識と気運を幼児公教育現場で高めていくユニークな協働事業である。

先駆性

- 自然保育に取り組む園に対する認証制度を設けるなど、地方創生・移住促進の点からも自治体が自然保育に積極的に取り組んでいる例は見受けられる。※先進例：長野県・広島県・鳥取県等
しかし、保育士自身がスキルアップしていく動きや、外部人材（今回においては環境学習指導員）の活用は個人・民間レベルでは見受けられるが、自治体では寡聞にして聞かない。
今回の取り組みは非常に先駆性が高い。

実績

- 前述の通り当団体は約 20 年前から乳幼児向け環境教育活動を行っており、ここ数年は市内小規模保育園など複数園に職員研修等を通年で定期的実施した実績がある。
またコロナ禍下の 2020～2021 年度は地球環境基金助成の支援のもと、幼児公教育従事者向け自然体験を保育に取り入れるための入門動画を 6 本作成した実績がある。

2年間の継続後

- 動画による啓発のみで静岡市内 200 園以上の意識と保育内容が変わるに至るとは考えていない。
この事業をきっかけに、環境学習指導員派遣制度が幼児公教育現場で活用され、また環境学習指導員側にも幼児向け環境教育のスキル向上の意識が高まることを目指したい。
さらに発展として、幼稚園教諭・保育士限定の環境学習指導員の特例認定が生まれることで
幼児公教育関係者の相互指導の仕組みが実装されることを提案したい。
結果として静岡市幼児公教育が自然を生かした教育保育の質を全体的に向上させ、地域の魅力向上につながることを目標としたい。